

| | |
|-------------|----------|
| 群 教 セ | E03 - 03 |
| | 平15.213集 |

目標に向かって高めあう学級づくり

- 「合唱祭プロジェクト」への取り組みを通して -

特別研修員 小川 良介

《 研究の概要 》

本研究は中学校2年生を対象に、校内合唱祭において「合唱祭プロジェクト」を展開し、意見交換を活発に行うことにより目標に向かって高め合う学級に育っていくことを実践を通して明らかにするものである。このプロジェクト（音楽、道徳、学級活動、日常の係活動）の中で、生徒の感想文を効果的に活用していくことで、互いの思いを共有し、成果と課題を明らかにしながら高め合うことへの価値を見いだせるようにした。

【 キーワード：学級経営 中学校 学級活動 合唱(祭)コンクール 】

主題設定の理由

中学校の授業は教科担任制であるため、担任がクラスの生徒とかかわる時間は小学校に比べて少ない。中学校の学級対抗行事は、担任がクラスの生徒と接する場として、大変貴重である。特に合唱コンクールは、同じ時間に、同じ場所で、同じ思いで、同じ音楽を表現する活動なので、集団の一員として、一人一人の責任や互いの協力が必要となる。その中で自分たちの良さを発見し、その良さを活かして活動し、喜びと課題を共有しながら活動を展開していけるという利点がある。たとえ歌が苦手でも自分にできることを見出し、それぞれの立場からクラスへ何かを投げかけることが自己表現（伝える）力を養うとともに、相互理解を深めながら、信頼の絆を強くし、帰属感を高め、努力の成果に喜びを分かち合うことができるようになる。

このクラス(第2学年4組 男子21名 女子17名 計38名)では、学級目標づくりに時間をかけ、理想のクラス像について意見交換を行ない、『みんなが一人一人を思いやり、強い友情と意志で団結。目指せ、最高の2 - 4!!』という学級目標を設定した。このクラスの長所として、清掃などの当番活動に協力して取り組み、終わったあと次の行動に移るのが早い。また、学級対抗行事に燃え、クラスメイトたちに練習を呼びかけるなどリーダーシップをとれる生徒もいる。その一方で、みんながやっているから何となく行動する。親しいクラスメイト以外に対してよそよそしい。自分の考えを自分の言葉で語るのが苦手であるなど、クラス全員が互いを認め合い、自分から積極的に集団やその活動に取り組もうという意識の高まりが足りない。

新学期当初の球技大会や長縄大会への取り組みでは、当番活動を早めに済ませ、朝や昼休みに主体的に練習をし、その成果を喜び合うことができた。学級対抗行事はプラス面を伸ばしながらマイナス面を克服するための共通の目標を設定し活動を展開していくのに絶好の機会である。そこには個と個の出会い（互いの良さの発見）、個性という凸と凹のかみ合わせ（良さの活用）、仲間意識に支えられ自信にあふれた自己表現の高まり（良さの創造）がある。

集団がひとつになるには明確な目標が必要である。諸問題を解決しながら、目標に向かって努力をしていくことで、ともに喜び互いに高めあう関係を築いていくことができる。そして、その努力の過程を、折々の生徒の感想文を効果的に活用して振り返ることで、成果と課題が明らかになり、活動を改善したり目標をステップアップさせていくことができる。このようなことを繰り返しながら活動していくことにより、目標に向かって高めあっていく学級をつくることができるものと考え本主題を設定した。

研究のねらい

「合唱祭プロジェクト」〔音楽・道徳・学級活動(短学活・昼休みを含む)の時間〕において

合唱祭に対する互いの思いを知り、前向きな気持ちを共有する。

クラスが理想の姿に近づいていくための具体策を出し合って活動する。

活動上の成果と課題を明らかにし、取り組みの改善を図る。

活動を振り返り、取り組みで得た価値を見出す。

という活動を積み重ねていくことで、互いの存在を認め合い、積極的にかかわり合いながら、目標に向かって高め合う学級に育っていくことを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 道徳「合唱祭への取り組み」において、事前のアンケート結果と生徒の感想文を資料として合唱祭に対する互いの思いを知り、クラスの理想の姿をイメージすることにより、集団の一員としての在り方や、学級の実態とめざす方向について考え、前向きな気持ちを共有することができるであろう。
- 2 学級活動「合唱祭プロジェクトを立ち上げよう」において、生徒の感想文をもとに、活動環境(目標、係分担、意見交換の方法)を話し合うことにより、クラスが理想の姿に近づいていくための具体策を出し合って自主的に日常の活動を展開することができるであろう。
- 3 学級活動「合唱祭まであと14日」において、ミーティングボードに寄せられたコメントをもとに活動上の成果と課題を明らかにすることにより、自他の取り組みを見直すとともに具体策を検討し、活動を充実させることができるであろう。
- 4 学級活動「合唱祭を振り返って」において、プロジェクトへの取り組みを振り返ることにより、そこから得た価値をクラスの共有財産として、今後の生活に活かそうとする意欲を持つことができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え

(1) 「目標に向かって高め合う学級」について

学校は集団生活を学ぶ場である。この研究では、学級対抗行事である合唱祭への取組を、生徒を鍛え、学ぶ場とする。一人一人違う個性を持つ人間が、共通の目標を持つことによって、具体的な活動内容を明確にし、自主的な活動を展開する。活動の半ばで、その過程を振り返ることにより、活動の成果と課題を明らかにする。そして課題を改善するための案を出し合って活動を充実させ、新しい成果を得る。こうしたことから膨らんでいく喜びと一体感は、クラスの共有財産となる。この共有財産は活動の様々な場面での生徒の発言やこまめに書きとめた感想文から取り組みの価値を見出していく。その経験を生かして、特別な行事だけでなく日常生活においても仲間と協力して主体的に取り組めるようになるということが「目標に向かって高めあう学級」と捉える。この実践における「目標」とは、生徒たちが時間をかけて作り出した学級目標にうたわれている姿を指すものである。それに近づくために合唱祭に向けての期間限定のクラス内の目標(スローガン)もあり、活動をしていく上で各係ごとや個人としての目

標もある。場面に応じて細分化された目標により、生徒たちの努力はより具体化されるものとする。これらの目標の向かう先は当然、学校教育目標である。

(2) 「合唱祭プロジェクト」について

音楽(10時間)、道徳(3時間)、学級活動(6時間。短学活や昼休みを除く)の時間において「合唱祭への取り組みに集中して、期間を限定して行う」というイメージを生徒たちと共有して進めていく。

音楽における教科担当の指導・援助は、三役(指揮・伴奏・パートリーダー)の生徒が立てた練習計画に対して、音楽的内容や練習方法についてのアドバイスをを行い、その計画に沿って課題を達成できるように、歌唱技術面の指導を行う。

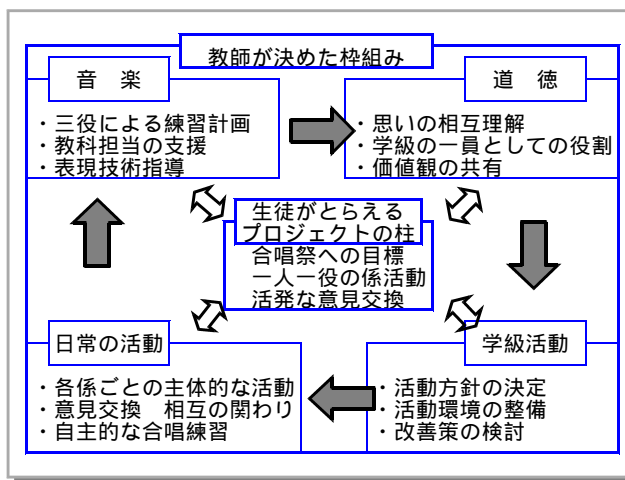


図1 合唱祭プロジェクト

学級活動及び道徳では、道徳〔4-(1)〕、学級活動〔A-(1)ア〕の視点を相互に作用させ、資料は生徒のコメントや、生徒が作成した資料を活用した。クラスの実態把握や、資料とする生徒の感想を吟味し、2単位時間をワンセットとして授業を展開することにした。

また、生徒が意識する「プロジェクト」の3つの柱として、

合唱祭への目標を決めて同じ旗のもとに力を合わせる。

合唱祭までの期間限定で、一人一役の係活動を展開し、全員で積極的に頑張る。

いつでも誰でも気軽に話し合いができる雰囲気や場を持ち、積極的な意見交換によって活気ある活動を展開する。

どれも道徳や学級活動での生徒の発言や感想文など、生徒の言葉から生み出していけるよう配慮した。意見交換については人前で話すことが苦手な生徒でも提案ができるよう、教室の壁に付箋紙に意見を書いて貼り付ける伝言板スタイルのコーナーを設置し、そのコーナーを生徒たちは「N P(初ポジ)ミーティング・ボード」と名づけた。

このプロジェクトで生徒同士のコミュニケーション能力を伸ばすことにより、自他の良さに気づき、良さを活用し、前向きに自己表現できるようになること(つまり、良さの活用の相乗効果)をねらっていきたい。

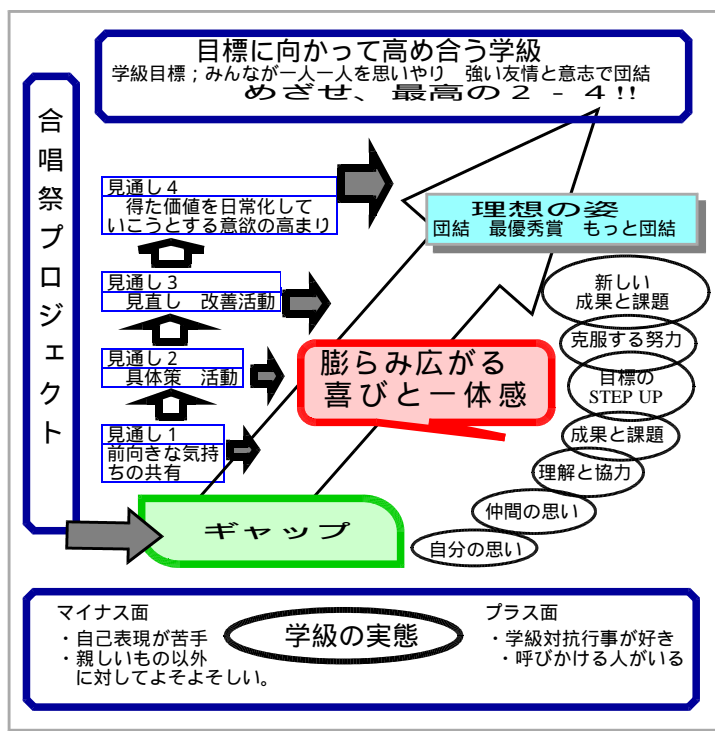


図2 研究全体の構想図

2 実践の概要

この研究は事前に行う「私の本音アンケート」の集計結果から、クラスには合唱祭への取り組みに対して楽しみであると思ふ積極的な気持ちと、「やりたくない」または「イヤだけど行事だから仕方がない」という消極的な気持ちの存在があることを理解し合うことから取り組みを開始した。

自分の思いと相手の思いの両方が寄り添っていくための架け橋をどうやって作っていくかということを通して道徳〔4-(1)〕と学級活動〔A-(1)ア〕の視点から取り組んだ。

スタート時点での自分の気持ちや相手の気持ちが進んでいく中で、お互いに高め合いながらどう変わっていくか。様々な場面で感想文を書き、振り返りの活動に活用しながら行った。

実践の大まかな流れは右の資料1の通りである。

資料1 実践の流れ

| 指導計画 | | | | |
|---|--------------------|-----------------------------|--|--|
| 学級活動は火曜日。道徳は木曜日にくまれている。必要に応じ、火曜と木曜の道徳と学級活動を入れ替える。 | | | | |
| 期日 | 活動の場面 | 活動の内容 | 指導支援の留意点 | |
| 見通し1 | 10/07 火 | 学級活動(体育祭を振り返る活動の後半として実施) | 学級目標から、合唱コンクールに取り組む自分や、クラスの理想の姿をイメージする。今年の合唱祭への自分の思いをアンケートに記入する。 | 合唱祭のビデオを見せ、昨年の記憶を鮮明によみがえらせる。クラスでのこれまでの学級對抗行事への取り組みの良い点やクラスの課題について話し合う。 |
| | 秋休み明けまでに | 宿題として(学級書記) | 合唱祭に対するアンケート調査の結果をまとめ、集計結果発表用の資料を作る。 | 数値のみの報告にならないよう、グラフやチャートなど、見やすい工夫をアドバイスする。 |
| | 10/16 木 10/23 木 | 道徳 | 資料から様々な思いの存在をつかみ感想を書く。クラスメイトの感想を資料にして、合唱祭へ取り組む自分の姿や自分の取り組みについて考える。 | クラスの様々な思いを構図化して板書し、とらえやすくする。啓発的な感想を取り上げ、合唱祭への取り組みについて考える資料とする。 |
| 見通し2 | 10/30 木 | 学級活動 21日(火)は校時変更により、なくなる | 合唱祭への取り組みに対する価値を共通理解して、PositiveとNegativeのズレをどう埋めていくか案を出し合う。 | 学級活動委員を中心に一人一人が意欲的に意見を出し合えるよう、道徳の時間の感想のまとめから話し合うポイントを絞る。 |
| | 10/30(木)から11/19水 | 主に朝や昼休みの常時活動として | 合唱練習の計画をはじめとする合唱祭プロジェクトの係活動を進める。 | それぞれの係が主体的に取り組めるよう、アドバイスを与え、つまづきや積極性を支援する。 |
| 見通し3 | 11/06 木 | 学級活動(改善策の話し合い) | プロジェクトの途中経過を振り返り、学級全体や係ごとでの活動成果を確認するとともに、残された課題の克服に向けて活動計画を立てる。 | 課題克服への支援はマイナス面の指摘ではなく、これまでの成果の価値を認めることにより取り組みへの意欲が高まるようにする。 |
| | 11/11 火 | 学級活動(発表会) | | |
| 見通し4 | 11/20 木 | 朝の会 帰りの会 | 目標と合唱の最終確認する。合唱祭の感想を書く。 | これまでの取り組みについて誉め、励まし、一人一人に自信を持たせる。 |
| | 11/25 火 | 道徳 | クラスメイトの感想を資料として活動を振り返る。 | 今回の経験で得たことの価値を前向きに評価させ、今後の学級や学校生活に活かしていけるように助言する。 |
| | 11/27 木 12/02 火 | 学級活動(話し合いと作業) 学級活動(発表会) | 活動の成果や目標の達成度を確認しあい、プロジェクトのストーリーを模造紙にまとめ発表する。 | 模造紙は廊下の掲示板に貼りだし、他のクラスの取り組みと交流を図れるようにする。 |

(1) 集団の一員としての在り方や、学級の実態と目指す方向について考え、合唱祭への取り組みに対する前向きな気持ちを共有できたか。見通し1

ア 実践の概要

1年生の時の合唱祭のビデオを視聴し、学級目標を意識して今年の合唱祭に取り組む自分自身やクラスの理想の姿をイメージした。

そして、今年の合唱祭に対する自分の思いについてアンケートをとり集計結果から互いの様々な思いとクラスの実態を構図化(図3)して捉えた。そのときに書いた啓発的な感想文を資料とし選び、集団の一員としての在り方や、学級が目指す方向について考えた。

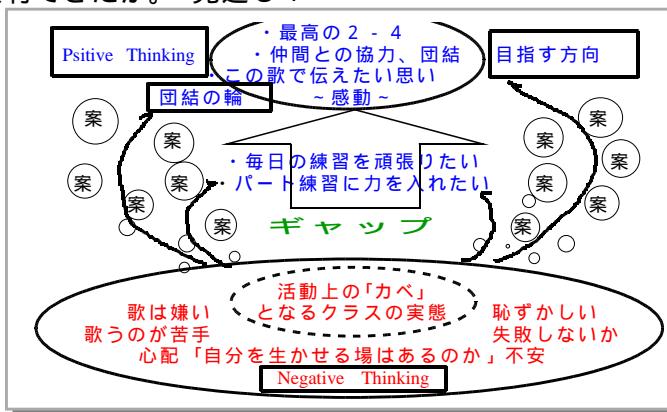


図3 クラスの思いと実態

イ 結果と考察

アンケートをまとめた生徒は、一人一人の思いについて、積極的(前向き)なものを Positive(ポジティブ)、消極的な気持ちや不安を Negative(ネガティブ)という言葉を使ってグラフと文章でまとめた。このアンケート結果を構図化(図3)しながら、クラスには Positive な思いと Negative な思いが存在し、両者のギャップをどう埋めていくかについて意見を出し合い考えることができた。資料2はそのときに書いた生徒の感想文である。

この感想文では Positive な自分の良さと Negative な人の不安な思いを認め両者が歩み寄って共に理想のクラス像に向かっていくために、みんなで案を出し合おうとしている。自分と相手を対にしてクラス全体の目指す方向を前向きにとらえている。さらに、この啓発的な感想文を資料として、内容を構図化(図4)して示しながらクラス全体が目指す方向や、クラスという集団の一員としての自分自身の合唱祭への取組方について考えた。

資料2 K子の感想文

私は歌も好きだし、歌うのも大好きです。でも、自分とちがって、歌うのがとても苦手な人もいるし、合唱が好きな人もこのクラスにいる。なのでそんな人とよく話し合っ、これから、合唱祭までがんばっていきたい。なので、何か不安だったら歌の好きな人に聞いてみればいいと思う。うまく答えが出せるかわからないけど、でもきっといいヒントになると思うので、不安をうちあけてほしい。そう思いました。逆に歌うのが好きな人は、それ以上に好きになれるように、みんなで案を出し合っ、いこうと思います。そうやっていけば、きっと1位になれると思います。1位になれば Negative な気持ちの人も、きっと、他の行事でも Positive な気持ちで前向きに取り組めると思っています。

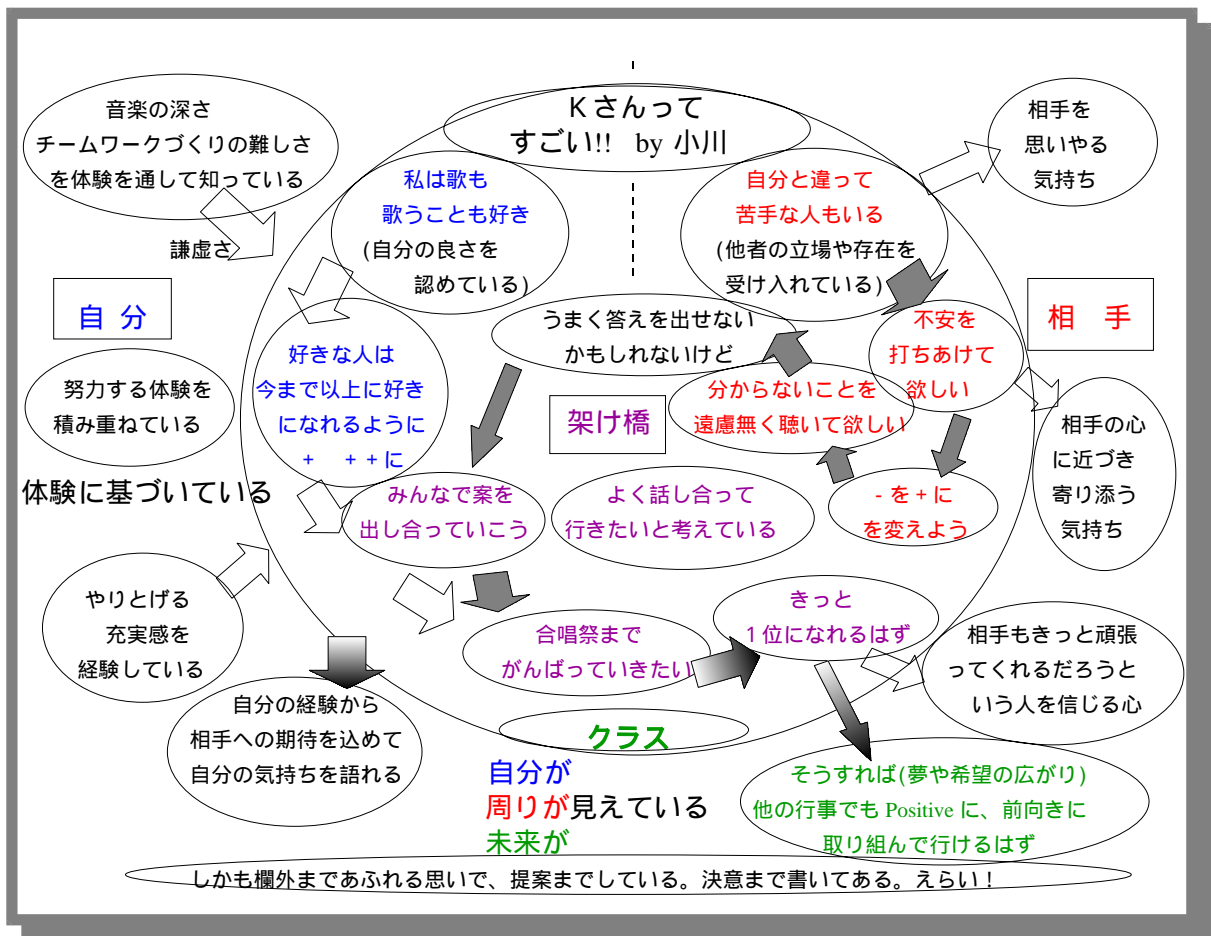


図4 感想文の内容の構図化

資料3 抽出児「T男」の感想文

右の資料3はこの授業後に生徒が書いた感想文の全てをプリントにまとめて配布したものの一部である。全員が、前向きな感想を書いていた。抽出生徒T男は事前のアンケートで「やる気のある人には悪いけど、おれははっきり言ってやるきがない。きんちょうするし、人の前で歌うのがいやだし、めんどくさい。」と書いていた。このことから生徒たちはクラスの理想の姿をイメージし、集団の一員としての在り方や、学級の実態と目指す方向について考え、合唱祭への取組に対する前向きな気持ちを共有できたと言える。

やっぱりKさんはすごいと思いました。みんなのことを考えて提案している姿は美しいと思いました。こういう人がいるからみんなもがんばれるのだと思いました。私もこういう考えを見習っていきたい。(Hさん)

合唱祭は、みんなでひとつの心に向かうことやチームワークなど、音楽の他にももっとたくさんの大切なこと、やらなければならないことがあると思った。自分ももっと積極的に became 方が良かったと思った。次回からは積極的に話し合いに参加しようと思う。(T君)

みんなの考えがだんだん変わってきていると思った。これからもっとたくさん話し合っ個人個人のいいところを引き出せて行けたらいいと思いました。(Nさん)

自分の考えが少し変わった。人の意見をたくさん取り入れるべきだと気づいた。もっと前向きな考えの輪が広がるようにクラスで、合唱祭への目標を決めたい。(F君)

不安な気持ちをみんなの前で言えない人もいるかもしれないから、目安箱みたいなのがあったらいいと思った。(Aさん)

いろいろな個性が集まっているのがクラスだから、その個性を生かして頑張ることが大切だと気づいた。(S君)

(2) クラスが理想の姿に近づいていくための具体策を出し合っ、自主的に活動することができたか。見通し2

ア 実践の概要

学級活動の時間に資料3を配布し、合唱祭プロジェクトをどう進めるかその具体策について話し合いを行った。資料3中の生徒の感想文の中に書かれた提案(波線をつけた部分)を受けて、合唱祭に向けてのクラスの目標づくり、一人一役の係活動、そして意見交換の方法について話し合いを進めた。

教師は11月11日まで朝や帰り、給食の前後等に、各係の生徒に声をかけながら、各係の活動が充実していくように支援した。

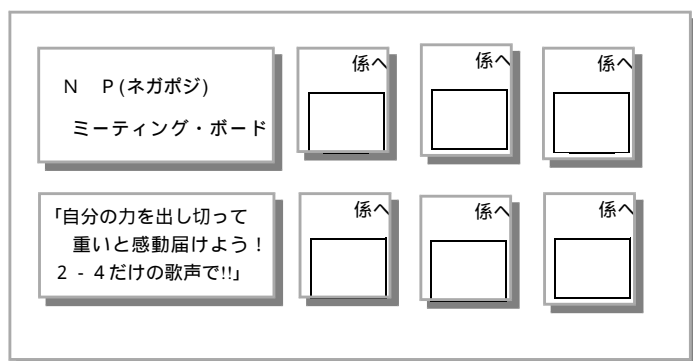
イ 結果と考察

1時間の学級会では決定を得られず帰りの会などに持ち越しになったり、細部調整を各係に割り当てたりする部分も出てきたが、それぞれの係が自主的に活動を進めていた。

合唱祭への目標は、『自分の力を出し切って想いと感動届けよう!2-4だけの歌声で!!』に決まった。

意見交換の方法については、人前で話すことが苦手な生徒でも提案ができるよう、教室の壁に付箋紙に意見を書いて貼り付ける伝言板スタイルのコーナー『N P(ネガポジ)ミーティング・ボード』(資料4)をつくり意見交換を始めた。

資料4 N Pミーティングボード



一人一役の係活動については行動力のある生徒数人がクラスに働きかけ歌が苦手な人でも、クラスに貢献できるように、係のクラスに貢献できるように、係の種類や、ネーミング、適正な人数、活動内容などについて休み時間等に盛んに話し合いを行っていた。この時点ですでに活動を始めている係もあった。(資料5)

資料5 合唱祭プロジェクト係分担一覧

下の資料6はこの学級会の後に生徒が書いた感想文を、プリントにして配布したものの一部である。抽出児T男の感想を見ると、合唱祭の目標の話合いに対して、大変前向きにとらえていると言える。一方で担当する係に対しては不安を抱えていることがわかる。

創意と積極性を持って取り組む係が多い中でT男のように活動が軌道に乗らない係については教師が相談に乗りながらではあるが、プロジェクトは概ね軌道に乗り、生徒たちは生き生きと自主的に取り組むことができた。以上のことから、目標に向かって頑張ろうとする意識が高まっているといえる。

| 係名 | 人数 | 活動内容 |
|-----------|----|--|
| 三 指揮者 | 2 | 練習計画を練り、表現の工夫や、ハーモニーづくりなど音楽的な面で、クラスを中心となり、練習を進める。 |
| 伴奏者 | 1 | |
| 役 パートリーダー | 4 | |
| コーディネーター | 2 | 各係の仕事の領域や作業の流れなどを調整する。 |
| 予定連絡 | 3 | 自習や特別教室の空き情報の入手や教科担当との交渉。 |
| 姿勢・身だしなみ | 2 | 姿勢や服装などを注意する。 |
| 音楽用語 | 2 | 楽譜にある音楽用語等について調べておき、わからない人に教える。 |
| 日記 | | 日々の取り組みや、練習で出てきた課題などをメモする。 |
| 用具 | 4 | ピアノ、キーボード、録音機材、CD、ラジカセ、いす並べ等、練習機材の準備と片づけ。 |
| 新聞 | 2 | 学級会で決まったこと、クラスの取り組みの様子などを記事にして、新聞を作り、他のクラス、学年にも発信する。 |
| アンケート | 3 | みんなの気持ち、要望などアンケートをとり集計する。 |
| 印刷 | 3 | 新聞やアンケート、プリントなどを印刷する。 |
| 模造紙 | 3 | 目標や注意事項、歌詞などみんなが見やすいように掲示物を作る。 |
| カウントダウン | 2 | 本番までの日数や練習時間の開始、終了、残り時間を知らせる。 以下略 |

資料6 抽出児T男の感想文

活動後の感想

・目標を決めるのに今日、みんなからすごく良い案がたくさん出た。これは今まで何度も合唱祭への自分や人の気持ちを確認してこれたからだと思う。(M君)

・掲示板はとても良いと思いました。声に出して言いにくいことも文にすれば色々な人に伝わると思います。そして目標づくりではだんだん思いがまとまってきました。こういう活動を繰り返していくうちにまとまり団結していくんだと思いました。(Sさん)

・今日の話し合いで隠れていた Negative な気持ちが Positive に変わってきました目標を決めていく内に合唱祭への取り組みが楽しくなってきました。(Mさん)

・目標を決めるとき良い意見がたくさん出て、全部使いたいくらいだった。出た意見をうまくまとめて良い目標をつくり、良い2・4にしていきたい。でも、自分の係には不安がある。ジャンケンで負けて『音楽用語』係になったが、音楽はさっぱり解らないから、みんなに聞かれても困る。(T君)

・クラス一人一人の意見を取り入れるために話し合った。自分に対しての意見があったら少しでも他の人に「改善できた」と思ってもらえるようにしたい。自分も他の人に意見を書いて、お互いを理解できるようになればよいと思う。目標は時間内に決定しなかったけれど目指す方向は徐々に見えてきた気がする。(A君)

・今日が一番話し合いが良かった。この調子でたくさん意見交換し、もっと個々を尊重しあえたらいいと思う。いい目標、いいクラス、いい歌を創っていきたい。(S君)(AさんとN君もほとんど同じコメントだった)

・自分で意見があっても発言できなかったので合唱祭を通してできるようになりたい。不安な人の気持ちを大切に、失敗した人を責めるようなクラスには絶対したくない。今日は歌の練習ができなくて残念だったけど、前よりも少し相手の気持ちを考えられるようになったから嬉しかったし、またやる気が出た。(Aさん)

(3) 改善策を見出し、活動を充実させることができたか。見通し3

ア 実践の概要

プロジェクトの活動も日常化しアンケート係による意識調査でも活動は「充実している」(37%)、「まあまあ」(57%)という結果が出た。しかし他の係の活動が見えづらい面もあり「N P ミーティングボード」の意見交換では、互いの活動を誉め合うことよりも要望や苦情が目立ってきた。肝心な合唱の方も伸び悩みの時期に入り練習への集中力が落ちてきた。高め合うどころかトラブルが起きる時期に入ってきた。そこで学級活動の時間に、

N P ミーティングボードに互いに寄せ合った各係への提案・要望を参考にし、これまで

の活動を振り返り成果と課題を明らかにする。

活動計画の修正と改善策について係ごとに話し合う。

係ごとにこれまでの活動の成果と課題、今後の活動における改善計画を発表し合う。

各係の発表を受けて、感想や合唱祭当日に向けての意気込みを書く。

という活動を行った。

イ 結果と考察

この活動の結果、今までは見えなかった他の係の苦労や工夫などを分かり合うことができた。理解し合うことは思いやりにつながり、「N Pミーティングボード」にはねぎらいの言葉が目立つようになってきた。また、当日に向けての意気込みを書いた宣言書には、意見は相手の心に届くように心を込めて伝える

こと、クラスメイトからのアドバイスを素直に受け入れること、「まあまあ」ではなく「とことん」自分の仕事や歌う事への努力をすることなどが書かれていた。資料7は抽出児T男の宣言書である。各係は改善計画をもとに活発に活動し、帰りの会での係からの連絡も以前より盛んになり「N Pミーティングボード」を使わず、直接、係同士でコンタクトを取る場面が増えてきた。このようなことから生徒たちは学級活動での話し合い活動を通して、改善策を見だし、活動を充実させることができたと言える。

資料7 抽出児T男の宣言書

つい最近用語から用具に変わり、まだなんにも用具係らしい仕事はしていない気がする。だから、残りの期間はイスやピアノなどを早く用意して練習する時間をいっぱい増やしたい。練習中に「ふざけ」たり、「指揮者」の言うことを全くきかなかった。クラスの学級目標を自分一人の生で壊している気がする。だから、しっかり指揮者の言うことを受け入れて、自分をクラスのために、なにかをできたらと思う。

(4) 得た価値を今後の生活に生かそうとする意欲を持つことができたか。 見通し4

ア 実践の概要

合唱祭終了後に書いた感想文からプロジェクトの成果や、そこから見出した取組に対する価値をピックアップして付箋紙に書き出した。グループごとにKJ法によって個人の内面やクラスの変化を確認し、プロジェクトを通して育んだ団結力や主体性について考えた。

イ 結果と考察

資料8は事前のアンケートで「ぼくは、はっきり言って(合唱祭は)あまり好きではありません。学校行事だからしょうがなくやる」と言う気持ちです。でも、優勝するとクラスの何かが変わるかもし

れないと思うと少し楽しみです。でも、失敗すると何かがなくなってしまいそうで不安です。去年は合唱祭をやっても何も変わりませんでした。」と書いていたU介が合唱祭終了後に書いた感想である。この感想文を資料として合唱祭の成果についての話し合いの様子を板書で構図化したものが図5である。プロジェクトの進行に沿って変わっていく自分と学級の様子を捉えているとともに、賞の獲得の喜びだけでなく「経験を活かしてクラス全体で団結しあって頑張っていきたい」という意欲の高まりが分かる。さらに各自の感想文を持ち寄り、グループごと

資料8 T男と同じ係のU介の感想文

ぼくは、最初「合唱祭なんてやだな」と思っていました。でも、係も作り、一人一役をやることになりました。最初は不安でした。でもだんだん日を重ねることになっていきました。ぼくは最初、音楽用語係だったのですが、用具係になりました。なぜならN Pミーティングボードに意見があったからです。でもぼくはこのまま音楽用語係を続けていたら挫折していたと思います。でもN Pミーティングボードと意見をくれた人のおかげで用具係に入り、仕事ができるようになりました。そして合唱祭が近づくにつれ練習が増え、パート別の練習も入ってきました。とうとう合唱祭の日がやってきた時、ぼくはとても緊張していました。なぜなら「うまくできなかったらどうしよう」とか「こんなに練習しているのに最優秀賞をとれなかったらどうしよう」とか思っていたからです。最初の頃は緊張して声が出せなかったけど、最後の方はみんな声をだしているのを聞いてぼくも声が出せました。いろいろトラブルとかもあったけど結果は最優秀賞がとれたのでよかったです。たしかに優勝も大切だけど合唱祭で団結力を高めることも大切です。でも2-4は、その団結力も高められたような気がします。これからこの合唱祭の経験を通して、2-4のひとりひとりではなく、2-4全体でまとまり団結し合って頑張っていきたいです。

にKJ法で取組のストーリーと成果を整理し模造紙に構図を示しながら発表を行った。各グループとも「これからもこの経験を生かし」「大きな行事はなくても」「来年クラスが変わってもそれぞれのクラスで」という結びで発表ができた。抽出児T男も「担任の小川先生が音楽だから、プロジェクトは合唱祭は歌の練習ばかりやるのかと思っていたら、ぜんぜんちがった。なんども話しあい、いけんをだしあって音楽がながな自分もせっきよくてきに活動できるプロジェクトだった。そうやってみんなががんばったから最優秀賞がとれたんだと思う。これからはあ

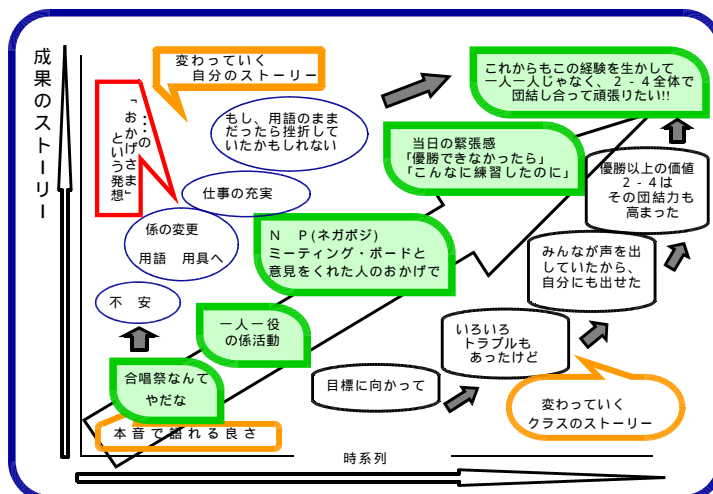


図5 U介の感想文の構図化

んまし行事がないけど、ふつうのときもクラスのために自分にできることがあればがんばろうとおもう。」と書いていた。この様子から今回の取組で得た価値を日常化していこうとする意欲が高まったと言える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

- (1) 合唱祭に対する事前のアンケートの結果や生徒の感想文を資料として、集団の一員としてのあり方や、学級の実態と目指す方向を前向きに捉える活動により、クラスの理想の姿をイメージしながら互いの思いを共有し、共に一つの目標(学級目標)に向かって頑張ろうとする意欲を持つことができた。
- (2) 生徒の感想文中の提案をもとに、協力して高め合っていくための環境を整備していく話し合い活動において、目標・係分担・意見交換の方法など、具体策を出し合って自主的に活動することができた。
- (3) これまでの自他の取り組みをチェックし、意見交換をすることにより、互いの努力や成果を認め合うとともに、課題を明らかにし、その改善策を見だし活動をより充実させることができた。
- (4) 活動の成果をクラスの共有財産として認識し合う活動を通して、合唱祭に協力して取り組んだ経験を生かして日常生活の様々な場面においても主体的に活動していこうとする意欲が高まった。

2 今後の課題

本校の学校文集のクラスの「一年の思い出」には合唱祭プロジェクトの成果の喜びを綴った者が多い。歌が好きで練習に熱心に取り組んだ生徒の一人が「優勝はしたが、団結するという本当の目的はまだ達成されていない」と書いていた。世の中に完璧はあり得ないし、評価の基準をどこに置くかで変わってくる。たとえ一瞬でも、1%でも努力によって効果が上がったことを大いに喜び、その経験を生かしながら、この生徒の言葉も謙虚に受け止め、常に高い理想に向かってともに努力を続ける学級づくりが大切であると考えます。